

就学時健康診断マニュアル（平成 24 年 10 月 11 日改訂）

1 就学時の健康診断の実施

（5）方法及び技術的基準

エ 視力

（ア） 検査の目的と意義

視力は出生後より発達するが、屈折異常や斜視などの種々の要因によって発達が阻害されると弱視となる。弱視とは器質的病変がなく、視力の低下した状態であり、眼鏡やコンタクトレンズによっても矯正視力が不良である。視力が完成する 6 歳頃までに弱視を治療しなければ、生涯に渡って矯正視力は改善しない。このため弱視は早期発見、早期治療が原則であり、視力が発達する幼稚園、保育園そして就学時の視力検査は重要である。

視力検査では裸眼視力を測定するが、眼鏡やコンタクトレンズ等を常用している園児で、検査に問題があったり、本人が希望しない場合は、裸眼視力を省略することができる。これは、日常生活の中での見え方を知ることが目的としているためである。0.3、0.7、1.0 の 3 視標によって判定する視力検査は、幼稚園、保育園そして就学時などの健康診断における視力検査がスクリーニングであり、最終診断ではないという基礎の上に基づいている。

（イ） 事前調査

幼児では保護者の協力が必要であるために、視力測定を行うにあたって保護者の方への説明、事前の問診表への記入、視力測定練習などが検査の補助となる。その参考資料とするために別紙 1、2 を参照されたい。

（ウ） 検査の実際

準	<p>1. 視力表：</p> <p>国際標準に準拠したランドルト環を使用した視力表の 0.3、0.7、1.0 の単独（字ひとつ）視標を使用する。破損、変色、しわのある視標は使用しないこと。視標の白地（視標背地）が汚れたり黄ばんだ時は新しいものと交換する。</p> <p>視標は 5m 用が望ましいが、3m 用を使用してもよい。</p> <p>視力表から 5（3）m 離れた床上に白色テープなどで印を付けておく。</p> <p>幼児では並列（字づまり）視力表では読みわけ困難のために視力が出にくいので、単独（字ひとつ）視力表を使用する（図 1 参照）。</p> <p>2. 照 明：</p> <p>明るい室内で行い、視標の白い背地の部分の明るさは、まぶしすぎて、あるいは暗すぎて見えにくくならないように配慮する。視標面の照度は 500～1,000 ルクスとする。</p> <p>3. 測定用検眼枠、遮眼器：</p> <p>検眼枠のフレームサイズは 50（52）mm が望ましい。片眼ずつ検査する時に、眼を圧迫しないで確実に覆うためには、検眼枠用の遮閉板（黒板）の使用が望ましいが、遮眼子、アイパッチなどでもよい。また、ガーゼ、ティッシュペーパーをたたんで絆創膏などで貼ってもよい。手のひらでの遮閉は不可とする。</p>
---	--

備	<p>眼鏡使用者の片眼遮閉用には、眼鏡用遮閉板のほかに、ガーゼ、ティッシュペーパーなどを使用する。</p> <p>遮蔽用の器具は直接眼に触れることもあり、感染予防のため清潔に留意し、感染の恐れがある場合には適時アルコールなどで消毒する。ガーゼ、ティッシュペーパーなどは、使い捨てとし、再使用しない。</p> <p>充血、眼脂があり、結膜炎などの疑いがある場合には検査は中止し、眼科受診を指示する。</p> <p>4. 検査場所：</p> <p>あまり狭くない部屋でカーテンを使用し、直射日光が入らないように注意する。目移りするような掲示物は片付け、騒音や雑音の入らない落ち着いた雰囲気で行うことができるように努める。扉は閉めて、同じ部屋に被検者以外の児童を入れないことが望ましい。</p> <p>視力表の視標は、背後の窓などで逆光にならないように配慮する。</p>
検査の方	<p>幼児では、検査に対する不安や不慣れのために正確な検査結果が得られないこともあるので、事前に予行を試みるとよい。0.1 の視標を用い、円の切れ目の方向を指示することができるように指導しておく。1週間前より家庭でランドルト環の単独（字ひとつ）視標で練習をする。</p> <p>1. 視標から眼までの距離は5(3)mとし、立たせるか椅子にかけさせる。</p> <p>2. 眼の高さと視標の高さはほぼ等しく、視標は垂直に提示して視線と視標面は直角になるようにする。</p> <p>3. 検査員は二人一組が望ましい。</p> <p>検査員Aは5(3)m離れた位置で視標を提示し、検査員Bは被検者に近くにつく。検査員Aは縦のみ、横のみの正解では、乱視を見逃すことがあるので、縦横のバランスが偏らないように視標を提示する。検査員Bは被検者が検査中に眼を細めていないか、顔を傾けていないか、眼鏡がはずれていないか、横から覗きこんで見ていないかを確認する。また、飽きてしまうと視標をみないことがあるので、検査員Bは声をかけ測定に集中するように促す。</p> <p>検査中に他の子どもたちが被検園児の視野に入るなど、干渉が入らないように配慮する。</p> <p>4. 最初に左眼を遮眼器等（遮閉板、黒板、遮眼子）で圧迫しないように、のぞき見していないかを注意しながら遮蔽する。右眼から眼を細めないで視標のランドルト環の切れ目を答えさせる。左眼についても同様に行う。</p> <p>5. はじめに0.3視標から開始するのを原則とする。上下左右のうち4方向を任意に見させ、視標の提示時間は約5秒間、4方向のうち3方向を正しく判別できれば「正しく判別」と判定する。判定できれば、次に0.7の視標にうつる。4方向のうち2方向以下の場合は「判別できない」と判定する。0.7の視標も同様に4方向のうち3方向を判別できれば「正しく判定」とする。判定できれば、次に1.0の視標で実施する。同様に1.0の指標が「正しく判別」できれば右眼の検査は終了し、右眼の判定をAとする（表1・2参照）。左眼も同様に検査を勧める。</p> <p>6. 字ひとつ視標の方向を変えるときは、裏返してくると回しながら変えていく。判定はランドルト環の切れ目が上下左右にあるもののみとする。斜め方向での判別は不要である。</p> <p>7. 眼鏡やコンタクトレンズ等を常用している者については、検査に問題ある場合や幼児が希望し</p>

法	<p>ない場合は、裸眼視力の検査は省略することができる。</p> <p>8. 眼鏡をときどき使用している者については、裸眼視力の検査が終わった後、眼鏡使用時の視力を検査する。</p> <p>9. 眼鏡を使用したまま検査をする場合は、眼鏡レンズをよく拭いて、汚れをとっておく。</p> <p>10. コンタクトレンズ使用者の裸眼視力が必要な場合は、コンタクトレンズを外した後のかすみ（スペクタクルブラーといい、回復までに30分前後のものから、長いものでは1～2日を要するものもある）が残るために、正確な視力測定が困難なこと、取り外しによるコンタクトレンズの破損、汚染などの危険等が考えられるので、眼科医の指導、指示に従って実施する。</p>
---	---

(エ) 判定基準

1. 眼科への受診を勧める幼児

- 1) 問診票で該当する項目が一つでもあった者
- 2) 視力検査で左右どちらか片方でも1.0未満である者
- 3) 視力測定中、次の様なことが認められた者
 - (1) 片目をかくすと異常に嫌がる者
 - (2) 検査中どうしても眼を細めたり、顔を傾けたり、顔を曲げてのぞきながら検査をした者
 - (3) 検査中眼が揺れている者

2. すでに眼科での治療を受けている者に関しては、主治医への通院を続けるよう指示する。

(オ) 視力検査結果と受診報告書

保護者への視力検査結果等のお知らせと受診報告書のひな形として別紙3を参照。ひな形は各地区の事情により修正して使用する。

別紙1 視力測定の説明、問診表、視力測定の練習

【視力測定を行うにあたって保護者の方へ】

子どもの視力は生まれてから発達をし、就学時までにはほぼ完成します。ところが強い屈折異常（近視・遠視・乱視）、屈折度の左右差や斜視があると目の正常な発達が行われず、よい視力が得られない、弱視という病気になってしまいます。弱視は、小学校に入学してから発見されてもあまりよい治療効果が期待できません。発見が早ければ、弱視の発生を防止でき、治療効果は高くなります。また、IT機器の普及などの視環境の変化に伴い、近視の子どもたちが増えています。このため、視力測定を行うことになりました。

【事前に次のことをお願いします】

1. 問診票(本紙の下段にあります)への記入

配布されました問診表で該当する項目がありましたら、チェックをしてください。

該当する項目がなければそのままかまいません。

2. 視力測定の練習

測定はランドルト環という黒い円の切れ目の方向を指でさして答えてもらうという方法で行います。園での視力検査をする前に、事前に練習用のランドルト環視標をお渡ししますので、ご家庭で練習をしておいて下さい。上下左右を指で示すことができれば十分です。この練習をしておかないと測定のやり方が理解できないために視力が悪いと判断されることがあります。

問診票の提出は 月 日 () までをお願いします

【問診表】

名前 _____

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 頭を左右どちらかに傾ける、顔を左右どちらかに回す、あごを上（下）げる | |
| <input type="checkbox"/> 眼（視線）が内側に寄っている | <input type="checkbox"/> 眼（視線）が外側に外れている |
| <input type="checkbox"/> 目を細めて見る | <input type="checkbox"/> 極端に近づいてみようとする |
| <input type="checkbox"/> TVに近づいて見る | <input type="checkbox"/> ものを近づけて見る |
| <input type="checkbox"/> 上目づかい（下目づかい）でもものを見る | <input type="checkbox"/> まぶたの形（大きさ）に左右差がある |
| <input type="checkbox"/> 屋外に出ると非常にまぶしがる・嫌がる | <input type="checkbox"/> 瞳の中央（奥の方）が白く光る |

別紙2 視力測定の実習

練習用ランドルト環の単独視標



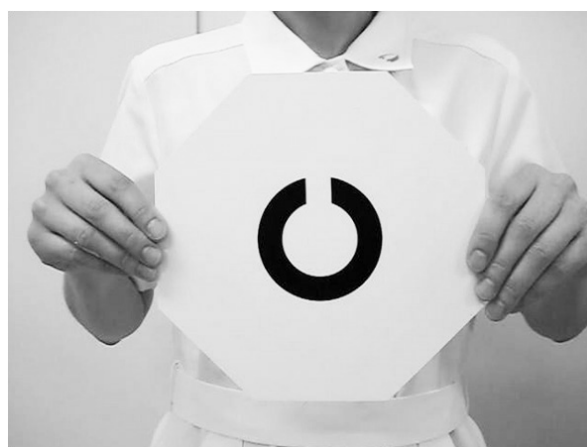
視標の見せかた



切れ目の答えかた(指で答えましょう!)



図1 ランドルト環の単独視標(字ひとつ)、検眼枠、遮閉板



※身体の前に視標を表示する場合には、距離が不安定になることがあるために視標を前後に動かさないように注意する。

※視標は壁に提示したほうがよい。

表1 視力測定を表示・区分

視力測定を表示	A	B	C	D
区分	1.0 以上	0.9~0.7	0.6~0.3	0.3 未満

表2 視力判定表

	使用視標	判定の可否	判定結果	次の手順	備考(事後措置等)
視 力 の 判 定	0.3	判別できない	D	終了	視力 C, D の場合は眼科専門 医の受診を勧奨する
		正しく判別	—	0.7 で検査	
	0.7	判別できない	C	終了	視力 B の場合、幼稚園の年 中、年少児を除く児童生徒に は受診を勧奨する。年中、年少 児には受診の勧奨は不要
		正しく判別	—	1.0 で検査	
	1.0	判別できない	B	終了	受診の勧奨は不要
		正しく判別	A	終了	

※「正しく判別」とは、上下左右 4 方向のうち 3 方向以上を判別した場合をいう。

※「判別できない」とは、上下左右 4 方向のうち 2 方向以下しか判別できない場合をいう。

別紙3 視力検査結果と受診報告書

平成 年 月 日

保護者様

視力検査結果等のお知らせ

組 番 名前

視力検査の結果、幼稚園の年長児及びその同年代に相当する場合は 1.0 未満、年少、年中児及びその同年代に相当する場合は 0.7 未満の方と問診表にチェックがある方は、眼科の受診をお勧めします。

【視力検査結果】

Table with 3 columns: Eye (Right/Left), Naked Vision, and Vision with Glasses/Contact Lenses. Rows show ranges from 0.3 to 1.0 or above.

【問診表結果】

- Checkboxes for symptoms: head tilting, eye position, squinting, TV viewing, eye shape, and pupil appearance.

受診報告書

◇視力 右目: ()近視・遠視・近視性乱視・遠視性乱視・混合乱視
左目: ()近視・遠視・近視性乱視・遠視性乱視・混合乱視

◇眼疾患 斜視・弱視・その他()

◇治療の要否 1.必要なし
2.経過観察
3.必要

◇日常生活における注意事項

上記のとおり報告します。

平成 年 月 日

医師名